

## [プロジェクトの評価] (政策評価書)

プロジェクト名	1 1 アジアへ広がる観光・交流推進プロジェクト			
目的	茨城空港や北関東自動車道などの広域交通ネットワークの整備効果を活かしながら、本県の魅力を様々な手法で効果的に情報発信し、発展著しいアジア地域などからの観光客の誘客を促進するとともに、広域的な観光・交流を推進し、一大交流拠点の形成を目指す。			
主担当部局	商工労働観光部, 土木部	関係部局	企画部, 生活環境部, 教育庁	
27年度の 評価	順調	概ね順調	やや遅れ	遅れ 参考: H26 概ね順調
5年間の 総括評価	<p>「茨城県観光振興基本計画」(平成 23～27 年度)に基づき、広域交通ネットワークの整備を踏まえ、宣伝誘客活動の戦略的な推進や、観光地の魅力向上とネットワークの形成、ニューツーリズムの推進、受入体制の充実強化に取り組んできた。</p> <p>その結果、東日本大震災や福島第一原発事故に伴う風評の影響で平成 23 年に震災前の 80%以下まで減少した観光入込客数は、年々回復し、平成 27 年の入込客数が 5,704 万人と目標を上回った。</p> <p>また、外国人旅行者数については、急増している中国、台湾、東南アジアからの誘客に積極的に取り組んできた結果、平成 27 年の外国人旅行者数が平成 23 年の約 2 倍となる 235 千人となったほか、茨城空港の就航路線についても、積極的な路線誘致により、国際線が目標を上回る 6 路線となるなど、大きな成果を得た。</p> <p>今後も、東京オリンピック・パラリンピックや茨城国体の開催を見据え、国内外から選ばれる観光を推進していく必要がある。</p>			
その他の 参考情報  ・政策評価委員 会意見 ・県政世論調査 ・全国の状況 等	<p>【県政世論調査 (H24)】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・多くの観光客を誘致するための大事な取組</li> <li>1位 「テレビやインターネット等を活用した情報発信」 55.8%</li> <li>2位 「観光施設の整備・充実」 15.0%</li> <li>3位 「観光イベントの充実」 9.9%</li> </ul> <p>【観光客動態調査 (H27)】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本県における観光に対する満足度</li> <li>1位 「非常に満足」 44.6%</li> <li>2位 「やや満足」 39.3%</li> </ul> <p>【全国の状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・観光入込客数(実人数)(3,345万人, H26) 全国 39 県中 11 位</li> <li>・観光消費額(2,261億円, H26) 全国 39 県中 20 位</li> <li>・道路実延長(55,829km, H26.4.1) 全国第 2 位</li> </ul>			
今後の課題 ・主な取組	<p>【今後の課題】</p> <p>首都圏や茨城空港の就航先等における本県観光の認知度を高め、更なる観光誘客を図るとともに、おもてなし日本一を目指し、全県的なおもてなしの向上を図る必要がある。</p> <p>また、2020年東京オリンピック・パラリンピックの開催を控え、急増が見込まれる外国人観光客を本県にもより多く誘客できるよう、魅力的な広域周遊ルートの形成や受入体制の整備などを促進していく必要がある。</p> <p>【主な取組】</p> <p>多様な広報媒体を通じて、首都圏や茨城空港の就航先等に向けた情報発信を進めるとともに、観光キャンペーンの実施や旅行会社へのツアー造成の働きかけ等に積極的に取り組むほか、全県的なおもてなし気運の醸成や観光マイスター制度の推進による人材育成にも取り組んでいく。</p> <p>また、外国人観光客の誘客については、引き続きランドオペレーター等への営業活動や、SNSを活用した情報発信、海外旅行博での直接的なPR活動等を推進するとともに、無料Wi-Fi提供環境の整備や多言語表記、和式トイレの洋式化など受入体制の整備を促進していく。</p>			

プロジェクトを構成する施策	施策名					評価 (*1)
	①国際観光・広域観光の推進					A
	②観光客受入体制の整備					A
	③茨城空港の利活用					A
	④交流を支える広域交通ネットワークの充実					B
	⑤国際社会で活躍できる人材の育成					B
数値目標 *分析等の詳細は各施策中に掲載	指標	関連施策	目標値 (基準値)	期待値	実績値	進捗状況 (*2)
	観光地点等入込客数	①	5,600 万人 (5,153 万人)	—	5,704 万人	↑
	外国人旅行者数	①	274 千人 (115 千人)	—	235 千人	⇒
	本県の観光に対し満足している観光客の割合	②	80% (73%)	—	83.9%	↑
	就航路線数 (国内・国際線)	③	(国内線) 5 路線 (3 路線)	—	4 路線	⇒
			(国際線) 5 路線 (2 路線)	—	6 路線	↑
	県外から県都へ高速道路を使って90分以内に到達できる人口	④	1,000 万人 (650 万人)	—	969 万人	⇒
青年海外協力隊への派遣者数 (累計)	⑤	800 人 (620 人)	—	759 人	⇒	

(\*1) 評価の根拠は、各施策評価書を参照。

A 期待通りの成果

B 概ね期待通りの成果

C 期待した成果を下回っている

D 期待された成果があがっていない

(\*2) 数値目標の進捗状況

↑	・・・	期待値に対する達成度 100%以上
⇒	・・・	// 80~99%
⇒	・・・	// 50~79%
⇒	・・・	// 50%以下

[プロジェクトを構成する施策・事業の評価] (施策・事業評価書)

施策名	11-① 国際観光・広域観光の推進				
27年度 施策の評価	A 期待通りの 成果	B 概ね期待 通りの成果	C期待した成果を 下回っている	D 期待された成果が あがっていない	[参考:H26] C
5年間の成果、 今後の課題・ 主な取組	<p>【5年間の成果】</p> <p>海外の旅行者等に対するPRや、茨城空港就航先である上海をはじめとした海外旅行博での本県観光情報の発信、インバウンド推進リーダーによる営業活動などにより、海外からの本県周遊ツアーが、平成26年度は341ツアー、平成27年度は1,363ツアーと急増したほか、外国人旅行者数も235千人となるなど、概ね期待通りの成果が得られた。</p> <p>また、首都圏や茨城空港就航先における観光キャンペーンや、近隣県と連携した広域的な魅力の発信などにより本県観光地の認知度が向上し、平成27年の県内観光入込客数が5,704万人と、目標を上回る成果が得られた。</p> <p>【今後の課題】</p> <p>2020年東京オリンピック・パラリンピックを控え、外国人観光客が増加することが見込まれることから、本県にも更なる観光誘客を図る必要があるほか、2次交通の整備や近隣県と連携した新たな周遊ルート形成を促進する必要がある。</p> <p>【今後の主な取組】</p> <p>海外からの誘客については、特に観光客が急増している台湾や東南アジアからの誘客を図るため、継続的にランドオペレーター等への営業活動を進めていくほか、SNS等を活用して本県観光情報を積極的に発信するとともに、海外の旅行博での直接的なPR活動等により、本県認知度の向上に向けた取組を強化していく。</p> <p>また、本県の魅力ある自然景観、文化遺産、郷土料理、伝統工芸品、最先端の科学技術などの観光資源について、多様な広報媒体を活用して情報発信するとともに、観光キャンペーンの実施や旅行会社へのツアー造成の働きかけなどにより、首都圏や茨城空港就航先をメインターゲットとした本県への誘客を促進していく。</p> <p style="text-align: right;">【担当：商工労働観光部】</p>				
施策を構成する事業の成果等					
事業名	目的、内容	数値目標(目標年度)	課題、今後の方向性		
担当課		期待値	評価結果 方針	1~4 【 】	
事業費(千円) (歳出、一財)		成果(H27)			
外国人観光客誘客促進事業	茨城空港に定期便が就航する中国からの誘客促進等を図る。 ・中国等向け誘客スタッフの雇用 ・春秋航空と連携したPR等 ・台湾や東南アジアにおける観光PR	外国人旅行者数 274千人(H27)  —  235千人	外国人旅行者を更に増やすため、特に訪日外客数が急増している中国、台湾、東南アジアからの誘客に積極的に取り組むとともに、Wi-Fi提供環境の整備や多言語表示の推進等といった受入体制の整備をさらに進めていく。		
国際観光課			評価結果 方針	3 【拡充】	
171,929 ;	5,154				

国際観光誘客促進事業	関東近県との広域連携により、中国、台湾、シンガポール等の旅行者やメディアを招へいするとともに、PRを実施する。	外国人旅行者数 274千人 (H27)	千葉県、北関東三県、北関東磐越五県等と広域的に連携し、海外から旅行者やメディアを招へいして、茨城の魅力をPRするとともに、海外からのツアー造成を図っていく。
国際観光課 1,800 ; 1,800		235千人	評価結果 3 方針 【拡充】
いばらきプレミアム観光推進事業	本県への宿泊旅行の動機付けと、旅行者の周遊促進による観光消費額増加を図るため、「宿泊券」を拡充するとともに、「周遊券」を発行する。	観光地点等入込客数 5,600万人 (H27)	本県への観光入込客数は、県北地域において、震災前の水準に満たない状況のため、引き続き地域限定で宿泊観光客の誘致に努める必要がある。
観光物産課 449,935 ; 0		5,704万人	評価結果 4 方針 【縮小】
いばらき夢ガイド設置事業	観光キャンペーンなどにおいて、本県観光の魅力幅広く発信し、本県のイメージアップや県内への観光誘客を図る。	観光地点等入込客数 5,600万人 (H27)	引き続き、好感度の高い「いばらき夢ガイド」の案内・PRにより、県内の観光の魅力を発信する。
観光物産課 66,980 ; 0		5,704万人	評価結果 4 方針 【現行どおり】
いばらき・とちぎ魅力発信事業	茨城空港就航先を対象として、栃木県と連携して、広域的な魅力を発信し、観光客を誘客する。	観光地点等入込客数 5,600万人 (H27)	日本遺産の認定を強くアピールするなど、引き続き栃木県と連携して情報発信や旅行商品造成等を行い、就航先からの誘客を促進する。
観光物産課 10,000 ; 0		5,704万人	評価結果 4 方針 【現行どおり】
観光キャンペーン事業	本県の優れた観光資源を広く全国に紹介・宣伝し、旅行商品の企画・造成を促進するなどして、観光客の誘致拡大を図る。	観光地点等入込客数 : 5,600万人 (H27) 日帰り観光入込客数 : 3,000万人 (H27) 宿泊観光入込客数 : 240万人 (H27) 観光消費額 : 2,380億円 (H27) 本県の観光に対し満足している観光客の割合 : 80.0% (H27)	福島第一原発事故による風評被害により、観光客の減少が県北臨海地域などで依然として厳しい状況にあるため、(一社)茨城県観光物産協会や市町村などと連携した様々なキャンペーンや効果的な広告宣伝活動を行うとともに、地域の魅力が体感できるイベント等を通じて「いばらき」を幅広く紹介する。 また、栃木県・群馬県をはじめ、首都圏や茨城空港就航先での活動も継続していく。
観光物産課 25,479 ; 24,619		観光地点等入込客数 : 5,704万人 日帰り観光入込客数 : 3,325万人 宿泊観光入込客数 : 534万人 観光消費額 : 2,695億円 本県の観光に対し満足している観光客の割合 : 83.9%	評価結果 4 方針 【現行どおり】

\* 「評価結果」は、評価対象年度に期待される事業の成果（期待値）に対する達成度を以下の通り分類する。

4 期待通りの成果（100%以上）	3 概ね期待通りの成果（80～99%）
2 期待した成果を下回っている（50～79%）	1 期待された成果があがっていない（50%未満）

\* 「方針」は平成27年度以降の事業の実施について以下から選定する。





【拡充，縮小，見直し，現行どおり，休止・廃止，統合，完了】

プロジェクト評価の見方

(\* 1) 評価の根拠は、各施策評価書を参照。

- A 期待通りの成果
- B 概ね期待通りの成果
- C 期待した成果を下回っている
- D 期待された成果があがっていない

(\* 2) 数値目標の進捗状況

	...	目標値に対する達成度	100%以上
	...	//	80~99%
	...	//	50~79%
	...	//	50%以下